

平成29年度 第1回 南丹市放課後児童健全育成事業運営委員会 議事録

平成29年11月9日（木）
午後1時30分～3時00分
南丹市日吉支所 第一会議室

出席

富田委員長、松尾副委員長、小南副委員長、村山委員、明田委員、川勝委員、塩内委員、増田委員

南丹市教育委員会 社会教育課 寺田課長、大塚係長、木上主任、人羅主事、加茂社教主事

欠席

片山委員、阜委員、野村委員、西田委員

*傍聴者0人

1 開会

2 寺田課長あいさつ

先月10月末に木枯らし1号が吹き、立冬もすぎ、冬の訪れを感じている。お忙しい中、運営委員会にご出席いただきありがとうございます。

この間を振り返ると、今年の夏は猛暑で台風の襲来もあった。とりわけ7月に九州北部の豪雨災害があり、本市においても過日、季節はずれの台風21号、22号が連続して襲来した。本市において人命被害はなかったものの、あらためて異常変災時の対応と備えは、児童クラブ運営上とくに大切な基盤であると確信した。安心・安全の確保と緊張感を持って運営を図っていききたい。

国の方では、一昨年4月に量の拡大と質の向上を目指して子育て支援新制度が始まり、放課後児童健全育成事業は中核的な事業の一つとして位置づけられた。量の拡大という面では、本市においても受け入れ対象の児童の拡大として本年度5年生、来年度6年生まで、順次対象の拡大を図っていく。

本運営委員会においても、過年度、さらに広く運営に係る意見を保護者から何うようご意見をいただき、今年度委員数を増員した。各委員におかれてはあらためて運営についてお願いしたい。のちほど、事務局の方から開設、運営状況について報告させていただき、来年度の開設にむけた諸準備について、また開設場所の運営の変更についても説明させて

いただく。

子どもたちにとって快適な居場所となるよう今後も放課後児童クラブの運営に努めたい。運営委員のみなさまには活発なご協議とご審議をお願いしたい。

3 運営委員紹介

- ・委員名簿のとおり

4 委員長・副委員長選出

選出方法 互選

- ・委員長 富田陽子
- ・副委員長 松尾武治、小南久仁子

5 協議内容

◆放課後児童クラブとは

- ・資料のとおり

◆放課後児童クラブの生活

- ・資料のとおり

◆放課後児童支援員の役割

- ・支援員は、子どもの人権を尊重し、学校や保護者との連携を図り、日々の健康管理、安全確保に留意し、複数体制で勤務している。
- ・個人情報の取り扱い、プライバシーに関する守秘義務に留意。
- ・府主催の支援員認定資格研修について、平成32年3月までに支援員が受講する計画で南丹市からも受講しており、平成29年10月末時点で25名が受講中または受講を終えている。

◆平成29年度南丹市放課後児童クラブ開設状況

- ・事業概要 資料どおり
- ・対象児童 資料どおり (対象児童を5年生に拡大)
- ・開設場所 ハード面の整備を進めており、平成29年度より胡麻どんぐり放課後児童クラブは新施設で開設。
- ・開設日数 22年度から土曜日の開設を始めている。園部地区では、たんぼぼ、こすもすの預かりを合同で開設。多い時には10人出席となるなど土曜日預かりが定着してきた。八木、日吉でも保護者の就労に合わせて、毎週ではないが複数クラブを合同により開設している。

- ・開設日・時間 下校時から午後6時30分で、長期休業時は午前8時30分から午後6時30分まで。警報発令時等に児童クラブが臨時休みになる緊急措置基準について保護者に資料を配布し、対応している。今後、警報発令時の放課後児童クラブの開設の在り方についても検討が必要になるが、今の時点では、警報が出ているような悪天候の中を施設の安全面も確保しながら支援員が出勤し、児童を受入れることは難しい状況。
- ・入部児童数 資料に申込者数を記載。利用者数は、クラブごとにひと月のうち、1日でも利用があった児童数を記載。
- ・支援員体制 資料どおり クラブによって違うが、大人数の場合では概ねひとりの支援員が10人前後の子どもを常にみている。支援員の雇用は、半年ごとに臨時職員の契約を結ぶ。子どもたちの授業が終わる時間に合わせて出勤し、支援員と学校との定期的な連携会議や、子どもに心配な面が顕著に見られる場合等は学校とも連携する。子どもの中には、市の発達支援センターで作業療法等を受けている児童や、花ノ木医療福祉センターへ受診している児童もあるが、保護者を通して各機関とも連携をとり、より過ごしやすい環境になるよう、サポートを受けているケースもある。また、虐待ケース等には、事務担当者が子育て支援課の担当と連携し、毎月のケース進行管理や個別のケース会議にも出席している。平成29年度から主事支援員として7.5時間勤務の支援員を位置づけ、現在4名の支援員が主事支援員として勤務している。主事支援員は、保育がより充実した内容になるよう事前の開設準備や関係機関との連携、施設の環境整備などを行う。
- ・支援員研修 支援員研修を積極的に進めている。年度当初の4月や夏休み前には新規採用者研修を行っている。支援員としての業務内容や児童対応等の細かな配慮事項を伝えている。支援員全体研修は年5回実施予定。あわせて、各クラブの代表が集まる代表者会議、クラブを超えた支援員の交流を行い、他クラブでの運営を学び合っている。入部児童の人数や環境に違いがあっても対応できるよう研修を積んでいる。京都府による認定支援員研修へも要件を満たす者から順番に受講している。
- ・保護者負担金 F階層が約50%、A・B・C・D・Eがそれぞれ10%前後となっている。

◆平成30年度南丹市放課後児童クラブ開設予定

- ・小学6年生までを預かりの対象とする。
- ・人数の増加にともない、手狭となる園部こすもす放課後児童クラブは、別の部屋の使用について小学校と調整中。
- ・八木せきれい東の開設場所について移転の調整を進めている。
- ・夏休みの遠足等の行事について、これまで以上に安全面に配慮し、緊急時のことや天候のことを考えて他府県への遠足は控える。近くてもよい場所がないか、検討を重ねている。

◆その他

・特になし

質問事項、意見

(委員) 5月から利用している。空きがあるか心配していたが入れた。先生も和気あいあいとしておられ、子どもたちを大切にさせていただいており、良いところもしっかり見ていただいている。過日の台風で、家から車でわずか10分の勤務先であるが、道路が崩落して通行止めになった。仕事に行った後に通行止めになったら児童クラブに迎えに行けなくなるのではないかと心配になった。原発事故の際、集会所からみんなでバスに乗って美山診療所に安定ヨウ素剤を取りに行くことになっている。事故の際、子どもは大人の4倍影響を受けるが、放射能が来る前にヨウ素剤を飲ませたい。道路が通行止めになっていたら、受け取りに行くことが出来ず迎えにも行けない。薬が手に入らない時のことを考えると、多くの保護者も心配されているのではないか。施設にヨウ素剤を置いていただきたい。少しでも子どもの命を守るために考えていただきたい。薬剤師・医師が少ない地域であり、南丹市議会全会一致で賛成していただいた経過もあるので、備蓄していただき、飲ませたくない保護者がある場合は、事前に調査して対応いただきたい。

(事務局) マニュアルが南丹市・放課後児童クラブ共にある。災害がおこった場合は保護者に連絡し、安全に引き渡しができるまでは保育をする。貴重なご意見をいただいた。命の確保が大切である。ヨウ素剤の対応についてはあくまでも市の方針及び計画に沿って対応することとなる。

(委員) 40時間の停電に遭い、電話も通じなかった。陸の孤島になった時に、児童クラブと連絡の取りようがない。原発事故が発生した場合に、ヨウ素剤があるかどうかで不安の度合いも変わる。市にも投げかけているが、いつ起こるか分からない事故に対し、できる限りよい方向にむかってみんなで進んでいきたいので、よろしく願いしたい。

(委員) 4月から利用している。5年生の子どもは長期休暇のみ、3年生の子は週に2・3回通っている。胡麻は、ハード面では昨年新設され、保育所跡地で銀杏の木があり、田舎な感じの校庭もある。キレイな環境で助かっているし、安心して仕事に行ける。色んな子どもがいて先生方も大変だと思う。他の保護者の意見を聞けていないので、個人的な意見になるが、敷地内に大きめの石の破片があり、ゴロゴロしているのがハード面で危ないと思う。

(事務局) コンクリート片については承知している。安全面の課題と受け止め、施設周辺の整備を現在進めているところである。

(委員) ほぼ毎日利用している。宿題をさせてもらっており、習慣がついて助かっている。児童クラブがイヤという話は聞いたことがなく、楽しく通っており、ありがたく思っている。さきほど、せきれい東の移転の話があったが、利用している人にとっては大きな

問題なので、出来るだけ早い段階で情報を伝えていただきたい。

(事務局) 移転は現在検討中である。公共施設を利用する方向で進めているが、大きな変更であるので、11月末の説明会で場所等を説明したい。現在のところ、場所は勤労福祉会館周辺の施設を使う方向で進めている。

(委員) スクールバスの関係で下校が早いため、放課後(下校後の時間)が長い。子どもたちの保育の方法を見て、保護者も安心されているのではないかと思う。小学校に隣接しているので、下校後、戻ってきて遅くまで遊んでいる様子を見かける。支援員にはご苦労があると思う。

(委員) 子どもの健全育成の観点から支援していただいていることに感謝する。週3回は一斉下校をするが、児童クラブの下校班の様子を見ると、支援員が迎えに来て確実に点呼を行いバスの乗車場所まで連れて行っていただいております、安全にも十分気を付けていただいている。様子を見に行ったことがあるが、支援員がマニュアルやプログラムに合わせて、細かいところまで見ていただき、きちっと指導もしていただいている。手を洗ったり、おやつ時間、宿題時間、遊び時間が決まっている。100名近い人数がいる中、安心して見ることができ、安心して任せられるという印象を受けた。

質問がある。次年度より6年生まで預かるのは、要望があったのか。

(事務局) 6年生までの預かりについては、量の拡大と質の向上という国の制度にもとづく。南丹市でも計画の一環として預かりを拡大している。

(委員) 学童に行くのが本意ではない子もいる。家庭の問題だと思うが、子どもとよく話し合っただけで子どもが納得して児童クラブに行くことが大切だと感じた。

(委員) この委員を長くしているが、だんだん良くなっていると感じており、違う角度から問題が見え、気づくこともある。今後、この資料にページを入れていただくとありがたい。資料の利用者数をみると、定員で若干の余裕があるのが殿田と美山。面積も一人当たり1.65㎡と定められている。今後、利用者が増えて手狭になることが心配。よくなっているが、一つ一つ上を向いて向上していただきたい。また、支援員1人につき10人を見ているという説明を聞いたが、子どもは学校から解放されてパワーアップするのではないかと思う。支援員が一人10名見るのは大変ではないかと心配なので、そのあたりも今後考えていただきたい。

(事務局) 施設については、何年か後にキャパが厳しいという所からいろいろと調整を図り、よりベターな施設の改良をはかりたい。また、施設そのものの移転も考えている。指針では20人に1人だが、特性のある子への対応も必要なので、加配的に対応することもある。募集をかけても支援員の確保が困難な状況であるが、引き続き募集をかけていくとともに、あわせて処遇について今後市として考えていかなければならない。国や府へも補助の要望をすることが大切だと考える。

(委員) 申込者数が定員数を大幅に超えている。これをどのように対応するのが喫緊の課題である。定員を大幅にオーバーし、申込者数ははるかに超えているのは行政の責任

である。文科省からも出ているとおり、学校と連携する必要がある。せきれい東の移転について、今まで懸念していた大きな道路を横断しなくて済むということで少し改善された。先日、殿田小学校に行ったが、学校から見える場所にあり、支援員と連携も取れていい環境だという話を聞いた。その姿が本来の姿であり、市として学童の設置目的を意識してほしい。一番大事なことは何かを考えていただきたい。

(事務局) 施設の充実については、国の方針でもあり、市の環境面とあわせて何がベストなのかを考えていきたい。子どもの放課後の安心できる居場所づくり、保護者の就労支援の趣旨を踏まえながら、よりベターからベストに近づけるように努力したいので、ご支援よろしくお願ひしたい。

(委員) 運営委員会の構成について、今年は保護者が増員され、地区ごとの学童の内情が聞けていいと思う。さらに、日々子どもに接しておられる支援員の出席について、規約にも定められているので、来年度は支援員の声を聞ける場をぜひ作っていただきたい。

(事務局) 運営委員会であるので、実際の現場の運営について分かるように、今後検討したい。

6 胡麻どんぐり放課後児童クラブ見学

7 閉会挨拶

胡麻の施設がよくなり、今後も子どもたちの過ごす環境がよくなるよう、またよりよい放課後児童クラブの運営についてよろしくお願ひしたい。

以上